

# Let's 探検! 工学部



## 環境社会工学科

### 研究室に大っきな水路が!



#### 取材協力

大学院工学研究科修士課程2年  
沿岸海洋工学研究室

石崎 真一郎さん

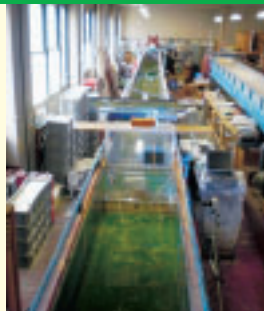
例えば、襟裳岬の北に位置する黄金道路では、波飛沫(なみしぶき)の影響で交通障害や物的・人的被害が生じることがあります。このような**沿岸域災害に対する被害予測モデル**や**ハザードマップ構築のツール**となりうる**波飛沫生成メカニズムの解明**が石崎さんの研究テーマです。石崎さんは、水路で起こした波を壁に衝突させ、打ち上がる波飛沫の研究を行っています。飛沫は微量で、かつ高速で飛び散るので、計測が難しいため、高速度カメラを用いた独自の撮影方法や画像解析法を用いて計測しています。膨大な数のデータが必要で楽ではないけれど、時には大好きな海で実験も行うから嬉しいという石崎さん。**世界的にもあまり行われていない研究に取り組むバイオニアであることが研究への原動力**になると話してくれました。

全長24mもの巨大な水路があるのは沿岸海洋工学研究室。**工学部の中で唯一「海」に関する研究をしている研究室**です。

海に囲まれた日本、そして北海道。時に荒々しく打ち寄せる波は海に欠かせない景観の一部ですが、同時に災害の要因となることもあります。



▲実験の様子  
(水路に波を起こすところ)



▲広い実験室にある24m水路

実験中は天井にまで  
飛沫が飛ぶそうですよ!  
実験のたびに  
水をかぶるとか。



取材[学生編集委員]  
大学院工学研究科修士課程1年  
(機械知能工学科卒)

松永 陽子